笑う門には福来る

校長 桑野啓子

2022年あけましておめでとうございます。新しい年を穏やかに迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。すべてのみなさまにとりまして、2022年が佳き年になりますよう、そして子どもたちにとって実りの多い年となりますことを心より願っております。

天平勝宝2年(750) I 月5日のこと。『万葉集』を編んだといわれる大伴家持は、久米朝臣広縄(くめのあそみひろなわ)の館に招かれ、次のような歌を詠んでいるそうです。

正月立つ春の初めに かくしつつ相し笑みてば 時じけめやも (巻 | 8・4 | 37)

「正月の立春の初めに、このように笑い合うことは、(今はそんな)時ではないなど ということがありましょうか。(いつでも笑いが幸いをもたらします)」と。

「相し笑みてば」から「笑う門には福来る」とのことわざを思い浮かべます。縁起物を供えて、お酒を飲んだりして、笑い合うと、その年が豊かに明るく過ごせると万葉の時代から信じられてきたことを、梅花女子大学の市瀬 教授がコラムに書かれていました。

締めくくりの3学期のスタートにあたり、彩都の目標「学ぶ 鍛える つながる」を改めて心に留めて、みんなで一緒に学びあうことで、より一層つながっていきたいと思います。3学期はまとめの学期でもあり、次の学年への準備の学期でもあります。出会い、ともに過ごした日々に感謝し、みんなが笑顔で過ごし、気持ちよく今年度を締めくくりたいと思います。まだまだ心配も尽きない感染状況ではありますが、保護者のみなさん、地域のみなさんのご理解とご協力をいただき、教職員一同力をあわせて、引き続き子どもたちを支援して参ります。2022年も本学園教育活動に変わらぬお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。